経営課題２　にぎわいとコミュニティが生まれるまちづくり
自己評価のまとめ

◇地域資源を活かした新たなにぎわいづくりと活性化

- 区民や区のイベント参加者が「西成区の地域資源を活かした取組みが、にぎわい創出やまちの活性化につながっている」と感じる割合は高い。今後も新型コロナウイルス感染症拡大の中であっても実施可能な西成区のイメージを向上する事業の充実をはかり、地域人材の発掘や育成に取り組む必要がある。

◇地域でのつながりづくり・福祉によるまちづくり

- 西成版サービスハブ構築・運営事業は、支援の過程を通じて、生活保護受給者を就労や社会貢献などにつなげ、社会への再包摂を果たしていくことを目的としている。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初目標には到達しなかったものの、運用を工夫しながら事業を継続させることが出来た。今後も、利用対象範囲を生活保護開始前の要保護者まで拡大する等、新たな利用者を確保していく。
- 複合的な課題を抱えた要援護者の早期発見のため、地域の見守り活動を担っている方々が支援が必要な人に気づき相談支援機関や行政などの専門職につなぐ活動「かけはし」となっていただくように周知を行った。また必要に応じて「つながる場」を開催し、支援体制の構築につなげた。

◇人権尊重のまちづくり

- 人権に対する意識については、人権啓発推進の取組みを継続的に実施することで変わってきている。引き続き、多様な機会を通じて区民に対して広く人権啓発推進の取組みを進めていく必要がある。

経営課題4　あいりん地域対策

具体的取組4－1－1　不法投棄対策

R2予算額	110,997千円	R3予算額	104,344千円

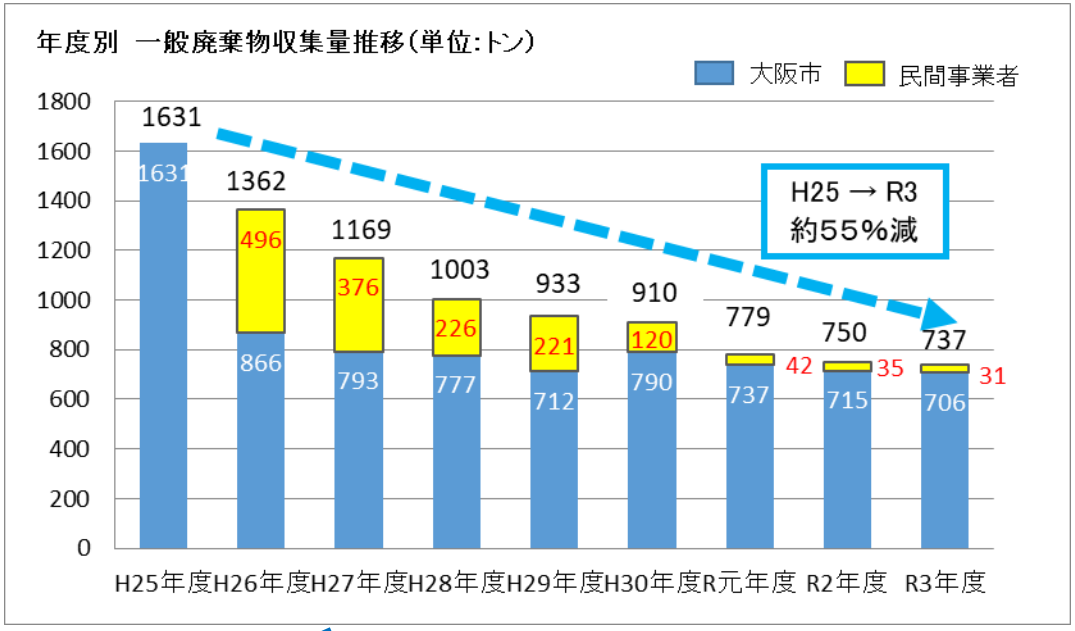
目標	目標値	結果
令和3年度の不法投棄ごみ量(収集量)を前年度より減少させる	750t未満	737t 達成

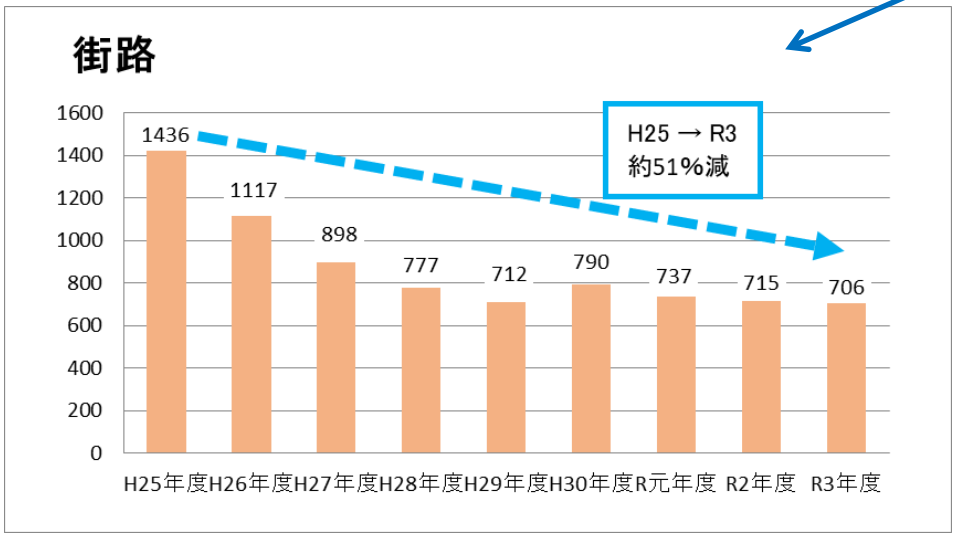
取組実績

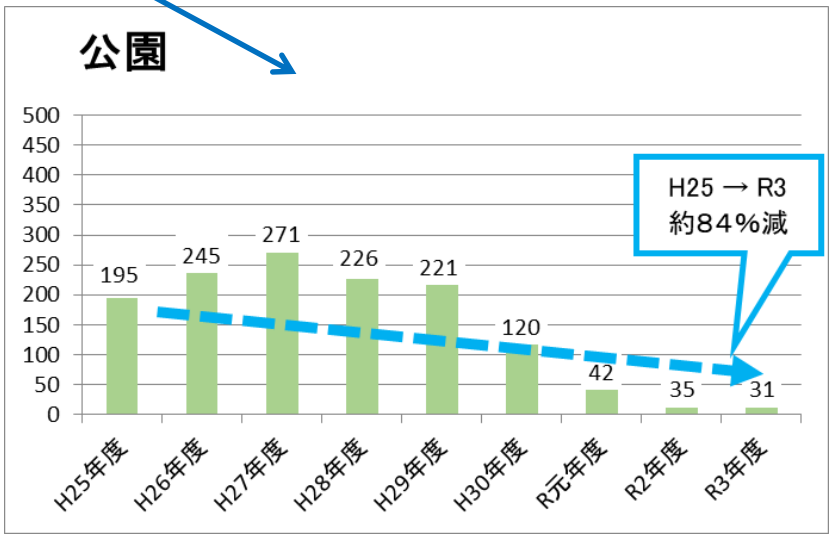
・不法投棄防止を目的とした巡回(毎日14時～翌6時)
・公園への不法投棄を防止するため、啓発拠点を設置し、家庭ごみの排出ルールなどを啓発(364日)
・生活保護世帯へのごみの出し方チラシの送付　約23,000枚

【一般廃棄物】
不法投棄
ごみ収集量

令和3年度
737トン
H25年度比：55%減
R2年度比：2%減







経営課題4　あいりん地域対策

具体的取組4－1－2　迷惑駐輪対策

R2予算額	4-1-1に含む	R3予算額	4-1-1に含む

目標	目標値	結果
あいりん地域内の迷惑駐輪台数を前年度より減少	2,350台以下	2,221台 達成

取組実績

・地域内自転車置場（約1,120台）の清掃及び整理整頓を実施（随時）
・長期間放置自転車への啓発エフ取り付け（42,000枚）
・長期放置自転車の撤去（1,230台）

自転車置場の整備状況

南海新今宮駅南高架下自転車置場
完成年度：平成27年度
収容台数：約300台

南海新今宮駅南高架下自転車置場

住吉神社前通線自転車置場
完成年度：平成29年度～30年度
収容台数：約270台

住吉神社前通線自転車置場

尼崎平野線南側自転車置場
完成年度：平成28年度
収容台数：約30台

阪堺線西側自転車置場
完成年度：平成28年度
収容台数：約300台

三角公園南側自転車置場
完成年度：平成26年度
収容台数：約60台

経営課題4　あいりん地域対策

具体的取組4－2－1　結核患者の早期発見･早期治療

R2予算額	20,454千円	R3予算額	20,873千円

目標	目標値	結果
あいりん地域の結核患者のうち、西成区実施の健診によって発見された方の割合	25%以上	29.8%

達成

取組実績

・西成区保健福祉センター分館で、毎日健診を実施
・あいりん地域内健診を38回実施
・あいりん地域内のアパートに受診勧奨を延べ86ヶ所実施（内5ヶ所戸別訪問、戸別ビラ配布14ヶ所）

■あいりん地域の結核患者のうち、西成区実施の健診によって発見された方の割合

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
受診者数（%）	29.2	20.4	24.7	30.4	23.5	31.1	30.6

経営課題4　あいりん地域対策

具体的取組4－2－2　結核患者の支援の充実

R2予算額	34,491千円	R3予算額	33,804千円

目標	目標値	結果
新登録肺結核患者の治療失敗・脱落中断割合	3%以下	1.2%

達成

取組実績

・あいりんDOTS開始数
　拠点型16名、訪問型17名
・「あいりん結核患者療養支援事業」居所確保
　地域内個室18名、地域内大部屋6名 利用

あいりんDOTS　拠点型の様子

経営課題４　あいりん地域対策
自己評価のまとめ

【あいりん地域環境対策】

- 取り組みにより不法投棄ごみ収集量は減少しており、不法投棄ごみが散逸していない状態を維持できている。路上駐輪台数についても取り組み前より減少した状態を維持している。

【結核対策】

- 2020年の西成区の罹患率が90.4となり目標としていた100未満へと減少していることから、これまでの特区による様々な結核対策の効果が表れていると考える。しかしながら、西成区の罹患率は依然として大阪市の中で突出して高いため、結核患者の早期発見につながる結核健診受診の重要性を引き続き広く普及していく必要がある。